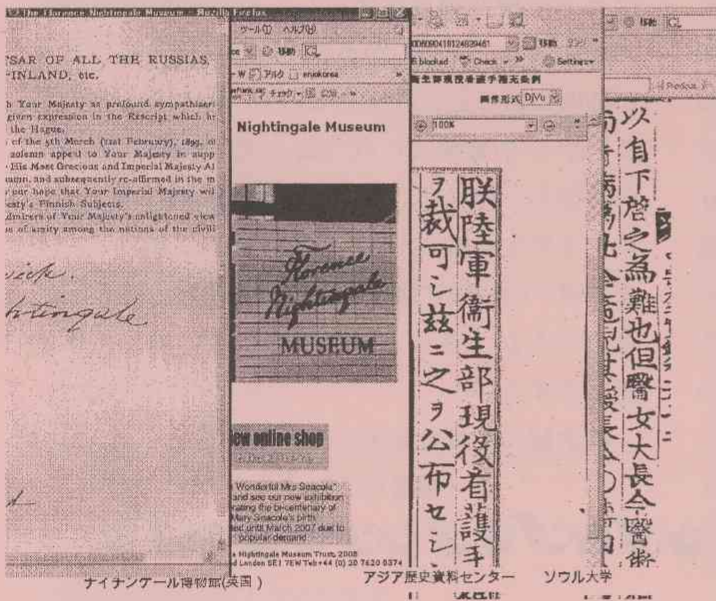


Not just in large institutions or big-city libraries

助教授 橋本 明浩

「大きな機関や大きな都市の図書館だけでなく」これは、1993年に米国がインターネットを国民に開放することを宣言した文の一部です。米国の広大な国土には、驚くような田舎が広がっています。交通手段は車だけ、数日間運転をして移動することを想像してください。教育、文化、医療、福祉のあらゆるサービスを受けようとしても、距離の障壁によって平等に享受できないのです。それを情報ハイウェイで克服しようと考えたのです。それまでのインターネットは大学、研究所のごく一部の人のための物だったのですが、それを一般人たちの福音にしようと考えたのです。この構想は更に発展し、

世界の図書館と博物館、大学図書館が高速のインターネット回線で結ばれ、貴重なコレクションを自由に見ることができるようになってきました。欧州研究図書館協会の古書プロジェクト、ソウル大学の古書、中国の故宮美術館等枚挙の暇がありません。世界中の豊富な文化が、時空を超えて互いに分かち合える日が来ているのです。例えば、「大長今（チャングム）の誓い」などで放映される宮中の様子、戦時中の看護手の募集、法規、ナイチンゲール女史の手記もすべて原文で、自分のパソコンで見ることができるのです（左は私のパソコンの画面です。左からナイチンゲールのサイン、同



博物館、看護手に関する詔勅、チャングムの記録を見ているところです）。

大学は知の城、図書館はその中核組織です。他大学の図書館は、変化する社会環境に備えて新しい組織、メディア基盤センターとして生まれ変わってきています。本学、そして地域の看護を学ぶ人のための教育研究の基盤となる新たな中核組織が望まれる時期になっていると思うのは私 1 人だけでしょうか？

Contents・・・(ページ)

「Not just in large institutions or big-city libraries」	・・・1	図書委員会主催特別講演会開催される・・・4	
書評『臨床看護研究の道しるべ』	・・・2	寄贈者名簿	・・・5
エッセイ	・・・2～3	リンクサイト紹介、看護学分類表改訂	・・・6

テーマ：卒業研究と図書館

連載企画 1. 書評

『臨床看護研究の道しるべ』 操華子、松本直子著

日本看護協会出版会 2006

講師 酒井 禎子

この図書館だよりが皆さんのお手元に届く頃は、4年生は卒業研究の提出を終え、ほっとしている頃でしょうか？それとも、ポスター発表の準備に追われている頃でしょうか？研究をまとめる過程では、大変なことがたくさんあったと思いますが、自分の心に浮かんだ一つの問いに自分なりの答えを見出すプロセス...研究って楽しいな...って少しでも感じてもらえたらうれしいと思っています。

さて、今回紹介するのは、9月8日に本学で文献検索についての講演をしてくださった、聖路加看護大学図書館司書の松本直子先生が著者のお1人である『臨床看護研究の道しるべ』です。その名のとおり、研究のプロセスを1つの旅に見立て、“アイデア高原からテーマ湖へ（問題の明確化、研究課題の絞り方）”“文献山～図書館茶屋～データ実ガーデン（文献検索）”などというように、臨床看護研究の「道のりMAP」を歩いていく方法がわかりやすく解説されています。また、その道のりの中で直面するさまざまな疑問、例え

ば、「漠然とした疑問を形にしていく時の具体的なプロセスは？」「研究計画書とは何？どのような内容を含めればいいのか？」といった身近な問題に対する回答が具体的に示されています。中でも、文献検索の具体的な方法についての解説が充実していることは、この本の特徴のひとつだと思います。医中誌 web を使って検索してみたら、「文献数が思いのほか多かった」、あるいは「思いのほか少なかった」...そんなとき、どんな風にキーワードや検索項目を設定していくのかといった文献検索のコツがわかるはず。かわいいイラストが随所に盛り込まれているのも、魅力の1つです。これから卒業論文に取り組んでいく研究初心者の皆さん、そして、4月には臨床現場に旅立っていく4年生の皆さんも、この本のマスコット“くまお君”と一緒に臨床看護研究の道のりを旅してみませんか？きっと研究の楽しさに出会えると思いますよ。

請求記号：N251-M151

(棚番号2)



連載企画 2. エッセイ

卒業研究と図書館

看護学部4年 平松 優

大 学生生活も4年目を迎え、大学集大成の年ということで、私は4月から卒業研究を進めています。4年生の多くは卒業研究の文献検索のため図書館を訪れることが多くあったと思います。私も例外なくその一人です。今までの約3年間ほとんど足を運ぶことがなかった図書館でしたが、この4月からは学校に行くときまず図書館へ行くことが日課のようになりました。雑誌や学会の資料をひっぱり出しては何時間も読んでいたり、研究を進めるうちに新しい文献が必要に

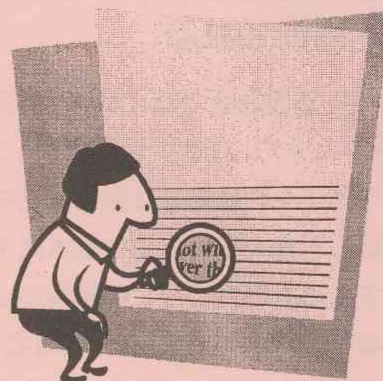
なったらまた図書館へ行ったりと、1日に何回も図書館へ行くこともありました。研究は進み、今は研究結果の分析をしている段階で、パソコンに向かって作業をすることが多くなりました。図書館へ足を運ぶことが少なくなりましたが、分析でつまった時は図書館で考え事をするがあります。図書館は静かで自分の頭の中を整理するにはとても良い環境だからです。私にとって図書館は「文献検索をする場所」でしたが、今となっては「自分が集中できる場所」になっています。

卒業研究と図書館

看護学部4年 佐藤 泰宏

私は、3年生になってから、図書館へ行き「臨床看護」「EB Nursing」など看護系雑誌を読むようになりました。最初は、学生っぽいことをしてみようかと、なんとなく雑誌を開きはじめましたが、そのうち借りて家に持って帰り、読むようになりました。読み初めのころは、何が書いてあるのか理解することに苦労しましたが、教科書を片手に内容がなんとなく理解できるようになり、看護の人を相手にする面白さまたは難しさを感じ、また、著者の患者に対する想いが伝わってくるようで、のめり込んでいくようになりました。このように、多くの雑誌をわからないなりに読み込んでいって、新しい看護技術やエビ

デンス、大きく言えば看護とは何かというのを学んでいけたように思えます。ここでの様々な看護や著者の考えとの出会いが、実習と同じように自分の力となって、私に取り組んでいる卒業研究を行う動機となって、私を動かしています。



卒業研究と図書館

看護学部4年 黒田 美樹

研究には多くの本の存在が必要だと実感した。私の場合、まず研究とは何か、今後どのように研究を進めていけばいいかを知ることから始まった。研究のテーマを決める時、研究計画書を書く時、専門実習に行っている時、論文をまとめていく時など常に私の側に本があった。そして、図書館にある多く本から自分の求めている内容の本を探すため、またさらに学校にはなく他の大学、図書館にある本を探すために医学中央雑誌、CINAHLなども活用した。研究で何か

わからないことがあると図書館にいき、何度も本を探し、読み直し、その繰り返しだった。そのとき、身近に図書館があり、調べられる環境であることに助けられた。卒業研究を通し、今まで以上に図書館を活用するようになり上手く図書館を利用していくことの必要性を実感した。また、研究で多くの本に目を通すことで新たなことを知ることが多かった。この経験を踏まえ、今後も図書館を有効に活用していこうと思う。

文献複写を申込む前に

論文の中には Web で公開されている場合があることをご存知ですか？

下記のデータベースでは無料で論文を入手できます。複写申込の前にぜひこれらのサイトで公開されていないかをチェックしてみましょう。

- ★ CiNii (サイニイ) <http://ci.nii.ac.jp/cinii/servlet/CiNiiTop#>
・・・日本語の学術論文を中心に収録。大学の紀要、学協会誌の本文が入手できる場合がある。
- ★ J-STAGE <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>
・・・日本国内の科学技術情報関係学協会の学会誌、論文誌の電子ジャーナル発行サイト。PubMedにリンクしている。
- ★ Free Medical Journals <http://www.freemedicaljournals.com/html/index.htm>
・・・フリーアクセス可能な、医学系外国語雑誌
- ★ Google Scholar <http://scholar.google.com/schhp?hl=ja&lr=>
・・・学術論文専用の検索エンジン。論文名で検索をすると全文ヒットする場合がある。

このほかにも購読雑誌の電子ジャーナル版やフリーアクセスジャーナルをリンクしています。図書館ホームページの「電子ジャーナル」もしくは「リンク集」をご覧ください。

図書委員会主催特別講演会

「質的研究をすすめるために ～文献検索から論文投稿の仕方まで～」
開催される



書委員会では、よりインターラクティブな図書館利用をすすめるため、9月に特別講演会およびプレ&ポストセッションを企画した。当初教員、大学院生を主な対象に企画・広報を行ったが、学部学生の積極的な参加も見られた。講演会の参加者は教職員21名、学生12名であった。

聖路加看護大学図書館の松本直子司書をお招きし、9月8日(金)に本学多目的室において「質的研究をすすめるために～文献検索から論文投稿の仕方まで～」をご講演いただいた。講演内容の概要は次のとおり。質的研究のデータ源は、『場』『時間』『目的』『理論的』などから作為的に抽出する。データ収集方法には『面接(非構成的)』『フォーカス・グループ』『フィールドワーク』等があり、研究デザインは『グランデッド・セオリー』『アクションリサーチ』『ナラティブリサーチ』『ケーススタディ』等がある。次に文献検索データベース「CINAHL」を用いて、看護の質的研究のための文献検索テクニックを説明された。ポイントは、対象を“表”にまとめること。縦軸に対象(人、出来事、活動(ケア)、時間など)、横軸にキーワード(日本語、英訳)、各データベースのシソーラス用語等の項目の表を作り、グルーピングしておく。対象をはっきりとさせることができ、検索漏れやキーワードの不備、同じような検索を何度も繰り返すことを防げる。検索結果を適切な文献に近づけるコツは、ディスクリプタ(Descriptors=シソーラス用語)に限定して検索すること。そのほか絞込みに有効な項目は、文献の種類(Document Type)、雑誌の種類(Subsets)、引用・参考文献(Cited References)がある。ノイズを減らす効果が期待できる。出版年での絞込みには注意が必要である。近年、海外文献数は急増しているため、単純に“過去〇年間”と範囲指定しても絞込む効果が無かったり、文献数のピーク時期を外してしまうと適切な論文を見落としてしまうことになりかねないからである。

終了後のアンケートには参加者全員が回答され、テーマ、内容、質問の時間は概ね好評だった。自由記載の感想には、「ProQuestの検索画面に沿って説明されたのでとてもわかりやすく、すぐに実践できそう」「検索式の組み立てについて表にすることなどとても新鮮だった」「検索もれの原因がよくわかった」などがあつた。これは講演内容が、研究論文作成に即役立つものであつたことを物語っている。「今後もこのような講演会を行ってほしい」「4年の看護研究が始まる前にあつたらよかった」などの意見もあつた。

講演会の前後に行ったプレ&ポストセッションでは、学内の教員にむけて具体的な文献検索の相談の機会を設けた。事前の申込みによって、8名の教員(内3名は共同研究グループ)が各セッション30分程度の面接を受けることができた。相談内容はおもに、それぞれがここに探求している研究課題に対して、どのような文献検索が可能なのか、具体的なキーワードの選定、適用する検索ソフトの種類、他の学際的分野の検索の必要性の是非などであつた。面接を受けた人は、「何をキーワードにすればよいか分かった」「そんな探し方もあるのか・・・」など知見は広がつたようである。

図書委員会では、さらに図書や文献を読むことへの関心が広がっていくよう、文献によって知見を得るための具体的な支援を今後も検討したい。また図書館では、各種データベースに精通し、利用者に高度なレファレンスサービスを提供できるよう努力していきたい。

～松本直子氏推薦図書の紹介～ (()は請求記号)

『ナースのためのWeb検索・文献検索テクニック』(N251-Sa85)、『図解PubMedの使い方』(490.7-A12)
著書『臨床看護研究の道しるべ』(N251-Mi51)

寄贈者名簿 <2006/5/12~10/31受入分> (五十音順 敬称略)

下記のみなさまよりご寄贈いただきました。大変ありがとうございました。

<あ行>

愛知きわみ看護短期大学
愛知県立大学
糸魚川総合病院
井上みゆき助教授
茨城県立医療大学
岩崎正也(早稲田大学)
小千谷市立図書館

<か行>

加固正子教授
神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科
川嶋みどり(日本赤十字看護大学)
川村佐和子(青森県立保健大学)
北川公子教授
岐阜県立看護大学
京都教育大学
京都大学高等教育研究開発推進センター
京都大学大学院人間・環境学研究所
県立新潟女子短期大学
廣潤社
公立大学協会
国土交通省国土計画局首都機能移転企画課
国立教育政策研究所
国立公文書館
国立大学入学者選抜研究連絡協議会
近藤紀子(日本赤十字武蔵野短期大学)

<さ行>

札幌医科大学保健医療学部
自治医科大学看護学部
島根県立看護短期大学
上越市健康づくり推進課
上越市健康福祉部介護保険課
上越市創造行政研究所
照林社
女子栄養大学出版部
全国老人保健施設協会
総務省統計研修所

<た行>

大学評価・学位授与機構
天理大学
東海大学医療技術短期大学
東京電力
特許庁技術調査課大学等支援室
富山大学附属図書館医薬学図書館

<な行>

中島紀恵子学長
中村博生助教授
中村恵子(札幌市立大学)
新潟県看護協会
新潟県危機管理管理監
新潟県教育庁生涯学習推進課青少年家庭養育係
新潟県県民生活・環境部男女平等社会推進課
新潟県県民生活・環境部防災局
新潟県国際交流協会
新潟県赤十字血液センター
新潟県総務管理部統計課
新潟県知的障害者福祉協会
新潟県図書館協会
新潟県長岡地域振興局健康福祉環境部
新潟県福祉保健部健康対策課
新潟県福祉保健部児童家庭課
新潟県福祉保健部福祉保健課
新潟県立図書館
新潟大学国際センター
新潟大学全学教育機構
新潟中央短期大学
日本学生支援機構留学情報センター
日本看護学校協議会共済会
日本看護協会
日本シエーリング
日本赤十字武蔵野短期大学
日本積雪連合
日本図書館協会
日本難病看護学会
日本訪問看護振興財団

<は行>

兵庫教育大学総務課
広島大学大学院教育学研究科
藤田保健衛生大学
防衛庁長官官房広報課
放送大学

<ま行>

宮崎公立大学
森谷峰雄(著者)
文部科学省

<や・英行>

山形大学
山形大学医学部看護学科
山口大学
読売新聞東京本社
MEDIC MEDIA



新規受入紀要

看護学統合研究(県大学看護学部)
中部大学生命健康科学研究所紀要
新潟国際情報大学情報文化学部紀要
弘前学院大学看護紀要
広島国際大学看護学ジャーナル
南九州看護研究誌(宮崎大学医学部看護学科)

新規寄贈雑誌

医科器械学
医学図書館
地域救急災害医療研究

闘病記を専門に探すサイト「闘病記ライブラリー」

“闘病記ライブラリーは、「闘病記」を専門に収蔵したインターネット上の図書館です。

闘病記は、病を経験した患者や患者の家族、患者を支える人によって書きつづられた記録であり、通常の医療情報からは得がたい貴重な情報源となります。けれども、本の題名に病名が入っていない場合、何の疾患について書かれた本であるのかが判断つきにくい為、簡単に探すことができないという問題があります。そこで、闘病記ライブラリーは、「がん」「脳の病気」といった 12 の分類にわけ、病名から本を見つけることができるようにしています。”（「サイトの概要」より）

トップページが分類ごとの書架になっていて、まさに目の前に書架があって背表紙を見ながら、闘病記を探ることができます。表紙だけでなく、目次や前書きを、実際に本をめくるように見ることもできます。2006年6月現在、700冊が登録されています。

URL : <http://toubyoki.info/index.html>

翻訳書を探す

参考文献は英文の図書だけど、それが和訳されていないか調べたいときに、NDL-OPACやWebcatで探すことができます。

NDL-OPAC は国立国会図書館（NDL）の蔵書検索サイトですが、国内で刊行された図書はすべてNDLに納本されているため、翻訳書も検索可能です。

たとえば、Jonsen, Albert R ほか著『Clinical ethics : a practical approach to ethical decisions in clinical medicine』の日本語訳が無いか確認したいとき、タイトル欄に“Clinical ethics”と入れ検索します。すると、『臨床倫理学：臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』がヒットします。タイトルをクリックして詳細画面を見ると「原タイトル：Clinical ethics」とあるのでこれが翻訳書であることが分かります。

Webcatでもタイトル検索で同様のことができます。ただし、Webcatは「大学図書館の所蔵検索サイト」なので、翻訳書が出版されていても、大学図書館に所蔵が無ければ該当なしとなりますのでご注意ください。

検索結果画面を下へスクロールすると、“Clinical ethics”が付いた英文タイトルの後に日本語のタイトルが続きます。そこから翻訳書を探します。翻訳書であれば、日本語タイトルをクリックして、書誌事項と所蔵館表示の画面を見ると、「注記」に“英語版〇版の翻訳”、「別タイトル」として上記の書名が書いてあります。

このほか『翻訳図書目録 88/92』（027.34-N71-88、窓下—1階入口側）では1988年4月～1992年3月に発行された翻訳書を全分野掲載しています。あわせてご利用ください。

NDL-OPAC URL : <http://opac.ndl.go.jp/>

Webcat URL : <http://webcat.nii.ac.jp/>

看護学分類表改訂のお知らせ

看護学図書において、下記の分類項目が増えましたのでお知らせします。

- ・ N170「人文社会科学」
 - ・ N180「自然科学」
 - ・ N190「基礎医学」
 - ・ N350「不妊看護」
 - ・ N420「小児の成長・発達」
 - ・ 小児（N490）、成人（N590）の下位に「再生医療・移植医療」
 - ・ N880「災害看護」
 - ・ N931「疼痛看護」
 - ・ N990「補完・代替医療」
- これまで「N170」（旧版「隣接諸科学」）でまとめていたものを、N170～N190に振替えます。

また、分類ごとに配架場所が分かれていた白書・統計書類（厚生労働白書、日本子ども資料年鑑、人口動態統計、国民生活基礎調査、等）を、1階窓下書架（入口側）にまとめました。目録・索引誌と同じ書架となり、調べものがしやすい配架にしました。ぜひご利用ください。

図書館だより 第20号(2006年11月 9日発行)

編集：新潟県立看護大学図書委員会 〒943-0147 上越市新南町240番地

発行：新潟県立看護大学図書館 TEL：025(526)1169(直通)

e-mail : tosyo@niigata-cn.ac.jp URL : <http://lib.niigata-cn.ac.jp/>